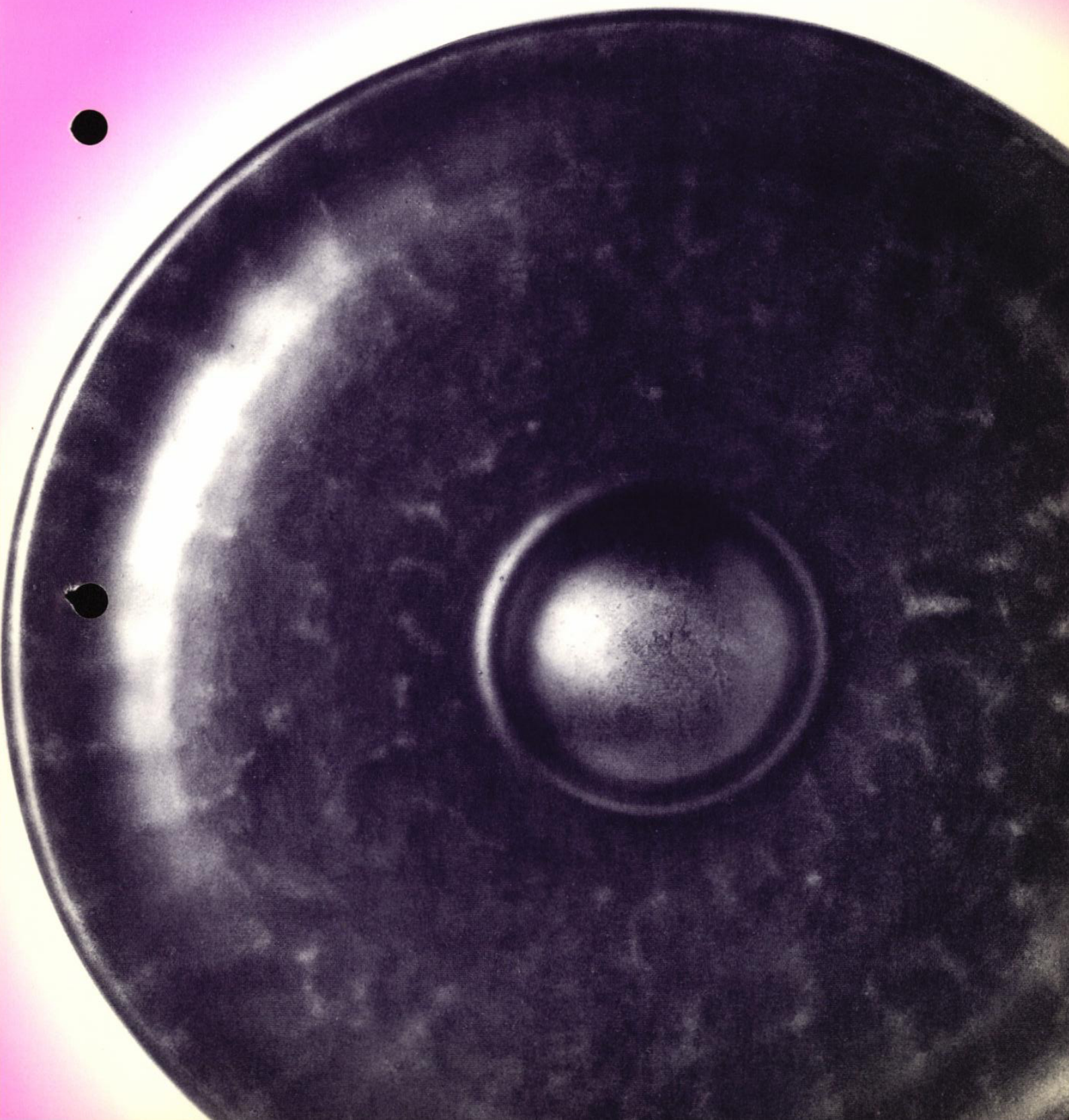
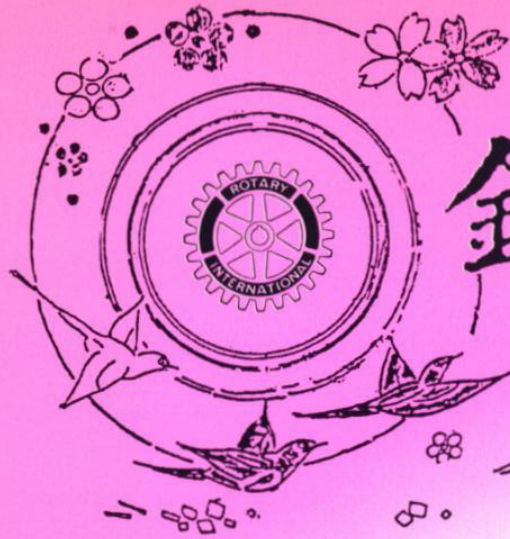


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1995年1月12日 第526号

金澤北ロータリークラブ



新年のごあいさつ

金沢北ロータリークラブ会長 乙村 舜 吉



新年明けまして御目出度うございます。

正月を「冥途の旅の一里塚、…」と詠った人もいますが、やはりいろいろな意味で、今年こそはと、一つの大きな区切りとなっているようです。

副会長・会長エレクト・会長とご指名をいただき、以来私なりにどうしたらよいか考えつづけました。無学非才を今更嘆いても前へは進めない

ので、開き直ったような気持ちを率直に「原点を尋ねて、次代を考える」と考え、そのまま本年度のクラブテーマとして取り上げさせていただきました。

幸運にも、国際R I 会長ビル・ハントレー氏の本年度テーマとして「BE A FRIEND」を示されたとき、ロータリーの提唱する真実・公平・友情・奉仕の四大項目の中でも特に大切な原点としての共感を覚え「友達になろう」を歌いながら半年なんとか務めて参りました。

折り返し点としての新年を迎えて、一層の前進をと心を新たにしています。

金沢7RC新年合同例会のホストを皮切りに平成7年がスタートします。

7月になれば石丸幹夫会長・越田和好幹事のコンビによる希望あふれる年度のスタートも予定されていることでもあります。

今年は “亥年で いい年”

会員諸兄のますますのご健勝とご活躍を心からお慶び申し上げます。

年忘れ家族会

親睦委員長 玉田 善 明

12月15日(木)午後5時から、松魚亭1階和室にて恒例の会員作品展が開催されました。立派な作品に今年も多く入札され、後ほどの抽選会で幸運を射止められた会員の皆様にはおめでとうございました。

6時からの例会終了後、少し足の短いサンタクロースさんの開会宣言と乾杯で、年忘れ家族会が始まりました。「今年も楽しみにしているよ」との多くの励ましの声?を頂戴し、プレッシャーに押し潰されそうな親睦委員会の面々は我先にとお酒のみ交わすのでした。

東京は浅草からお呼びした、本格的お座敷芸の「翫間」わかりやすく言えば「太鼓もち」の若手のホープ、千代介師匠の一席から幕を開けました。ユーモアとウイットに富んだ師匠の芸は、子供ではちょっとわかりにくく大人では、思わず吹き出してしまうくらい楽しいものでした。

皆様食べたものが、お腹の中でどこへ行ったかわからなくなってしまったとの事でした。

しばらくご歓談頂き、いよいよ皆様に何とか楽しんで頂こうとの親睦委員全員参加の、涙ぐましいエンターテイメントの始まりとなりました。懐メロオンステージの幕開きは『東京の花売り娘』から始まりました。『スーダラ節』、『青い山脈』『松の木小唄』『憧れのハワイ航路』とそれはそれは素晴らしい？エンターティナーのショーを、それこそタダ同然の料金で、皆様に堪能して頂きました。

中には胸を悪くされた会員の方もおいでたそうですが(?)、1994年も後わずか、今年の笑い納め、恥のかき終わり、すべて前向きに解釈し、大成功で幕を閉じました。

最後のステージは、千代介師匠の立派で気品のある獅子舞で、後味の悪さを払拭きして無事年忘れ家族会を終了致しました。

会員の皆様、又ご家族の皆様大変ありがとうございました。特に親睦委員会の皆様には陳謝申し上げ、来年もさらなる良いお年となりますようご祈念申し上げます、報告とします。



二塚長生会員画

